

# 緑化だより

No.154 令和元年10月号



コウヤボウキ

10月 休園日はありません

- 季節の花(ヤブラン)
- 昆虫の話(秋の夜長の演奏家  
・エンマコオロギ)
- 小さな世界こけ(ハタケゴケ)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内



ryokka 緑化センターのふたふた  
**広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園**  
〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811

FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>

E-mail [hiroshima@ryokka-c.jp](mailto:hiroshima@ryokka-c.jp)

# 季節の花

## ヤブラン

「咲く花は移ろう時あり あしひきの 山菅(やますが)の 根し 長くはありけり」

大伴家持 万葉集 巻20:4484

これを訳しますと

(美しく咲く花は、一時のもので、すぐ色あせてしまい、散りすぎていくことがあるけれど、目に見えない山菅の根っこは、長く生きていくものです)

政変の企てに加わらなかった家持の心境を植物の変化に託した歌です。

大伴家持は延暦4年8月22日(西暦785年10月15日)に亡くなったと言われています。没した直後の延暦4年9月24日(西暦785年11月4日)、桓武天皇から長岡京造宮使の命を受け推進していた、藤原種継(たねつぐ)が暗殺される事件がありました。犯人のなかに大伴家の一族がいたために、藤原氏は一族の長であった大伴家持を犯罪者の主謀者にする事で、政権の中枢部から大伴一族を排しました。その事件から時は流れ、延暦13年10月22日(西暦794年)に都は長岡京から平安京へ遷りました。

山菅(ヤマスガ、ヤマスゲ)は、ヤブラン(藪蘭)の古名です。ヤブランはキジカクシ科(もとはユリ科)ヤブラン属で、日本、中国大陸、台湾に自生する常緑性の多年草で、シイなどの常緑広葉樹林の薄暗い林床に自生します。日本にはヤブラン、ヒメヤブラン、コヤブランの3種があります。

夏から秋に、紫色の小さな花が穂状に咲き、葉は細長く垂れます。ヤブランは株で増えますが、同属のコヤブランは地下茎を伸ばして増えます。果実は球形で熟すと黒くなります。

根を採取して乾燥させたものは「大葉麦門冬」と呼ばれ、薬草です。

園芸品種の、葉に黄色の縦縞が入るフイリヤブランは人気で、公園や庭園の根元によく植えられています。(上村)



ヤブラン



フイリヤブラン

# 昆虫の話

## 秋の夜長の演奏家・エンマコオロギ

秋の夜、野山は様々な虫の鳴き声でにぎやかになります。その中で最も身近な鳴く虫といえば、やはりエンマコオロギです。その鳴き声は、日本の秋を代表する音といってよいでしょう。たとえ野外でその姿を目にすることはなくても、秋を象徴する効果音として様々な場所でその鳴き声を聞くことができます。

エンマコオロギは主に草地に住み、なかでも少し人の手が入った畑の周囲や田の畔などで多く見られます。そのため虫と出会う機会が少ない都会でも、空き地や河川敷等のちょっとした草地があればその声を聴くことができます。

体長は3 cmほどの大きなコオロギで、広島で見られるコオロギの中では最大級です。顔の額の部分に白い眉のような模様があり、この模様を怒った閻魔大王の表情に見立てて「エンマコオロギ」と名付けられました。名前と裏腹に、オスは「コロコロコロ…」という愛らしい声で鳴きます。この時、鳴いている雄を観察してみると、しきりに翅を震わせていることがわかります。

コオロギやキリギリスの仲間は、このように翅をこすり合わせて鳴き声を出すのです。エンマコオロギの成虫は夏の終わりからあらわれ、9月から10月にかけて最盛期を迎えます。緑化センターや森林公園の周りでは、草の多い法面でその鳴き声を耳にすることができます。もし「コロコロコロ…」という声が聞こえたら、耳を傾けてみてください。(市森林公園こんちゅう館 逸見)



エンマコオロギ

## 小さな世界 こけ

### ハタケゴケ

緑化センター内、多目的広場の池の近くのベンチの足元でハタケゴケを見つけました。

ハタケゴケは名前のとおり、畑や日当たりのよいやや湿った場所に生育します。仲間のウキゴケは、池や水田で、ウキクサに混じって浮いているのを見ることがあり、準絶滅危惧種(NT)になっています。

乾燥している時のハタケゴケは、地衣類のように見えますが、茎葉体は、水を含むと肉厚になり、ロゼット状に広がります。幅は1~3 mm程度で、二股に分かれた茎は四方に向かって伸びます。葉の中央は溝状になり、秋になると溝の部分に黒い点々ができます。これは孢子体で、冬に葉が枯れると、孢子はそのまま土に混じって冬を越し、春を待ちます。

カンハタケゴケは、秋~冬の時期に生育しますが、葉の縁がレースのフリルをつけている様に見えるウロコハタケゴケなど、ほとんどの種類は夏から秋にかけて見られます。

この仲間は日本では約10種類が知られていますが、葉状体内部の気室の有無、孢子の大きさや形を見なければ同定は難しいようです。(山根)



乾燥時のハタケゴケ



湿潤時のハタケゴケ



孢子体をつけたウロコハタケゴケ

# 研修会のご案内

- |  |  |
|--|--|
| ○ 10月6日(日)『秋のきのこ入門観察会』<br>講師と園内を歩き発生しているきのこの説明を受けます<br>※ 要予約(キャンセル待ち)、無料、                | 10:00～12:00 学習展示館前 集合<br>講師 :きのこアドバイザー<br>川上 嘉章              |
| ○ 10月14日(月)『10月の自然探勝』<br>秋の草花と木の実を観察しよう<br>※ 自由参加、無料、ルーペ持参                               | 10:00～12:00 学習展示館前 集合<br>講師 :森林インストラクター<br>駄賀 恒男             |
| ○ 10月14日(月)『シダの学習会No.2』<br>野外でシダを観察しよう<br>※ 自由参加、無料、ルーペ持参                                | 13:00～15:00 学習室 集合<br>コーディネーター:<br>駄賀 恒男                     |
| ○ 10月18日(金)『果樹の手入れ(秋)』<br>果樹の秋の手入れを学ぼう<br>※ 自由参加、無料、                                     | 10:00～12:00 学習室 集合<br>講師 :元県立農業技術センター果樹研究部<br>三原分室室長 石井 實    |
| ○ 10月19日(土)『どんぐりクッキング』<br>秋の気配を探そう<br>※ 要予約 (先着30名,残りわずか)、無料                             | 10:00～12:00 学習室 集合<br>講師 :日本シェアリングネイチャー協会<br>レナー 住吉 和子       |
| ○ 10月20日(日)『秋のきのこ教室』<br>園内で採集したきのこの名前や食毒を学ぼう<br>※自由参加、無料、採集用カゴ持参                         | 10:00～14:00 第3駐車場 集合<br>講師 :きのこアドバイザー<br>川上 嘉章               |
| ○ 10月22日(火・祝)『秋のハイキング<br>～立石山を歩こう～』<br>里山の秋を観察しよう<br>※ 自由参加、無料                           | 10:00～12:00 学習展示館前 集合<br>講師 :広島県文化財保護審議会委員<br>(植物生態学) 吉野 由紀夫 |
| ○ 10月26日(土)『つづらふじでカゴ作り』<br>曲げても折れないツヅラフジでカゴを作ろう<br>※ 要予約 (先着15組)、材料費1,500円               | 10:00～14:00 学習室 集合<br>講師 : つづらふじ造形作家<br>飛河 道雄                |
| ○ 10月26日(土)『第6回ひろしま遊学の森<br>こども写生大会』<br>秋の緑化センターを描こう<br>※ 自由参加(審査対象は小学生以下)、無料、画材持参(画用紙以外) | 10:00～12:00 緑の相談所 集合<br>講師 :元中国新聞図画教室 指導審査員<br>横山 直江         |
| ○ 10月27日(日)『秋のバードウォッチング』<br>※自由参加、無料、双眼鏡持参   | 10:00～12:00 学習展示館前 集合<br>講師:日本鳥類保護連盟会員<br>吉見 良一              |

## ☆お知らせ・ご案内☆♪

秋のおでかけキャンペーン 10月5日(土)～11月17日(日)

もみじ祭り 10月26日(土)～11月17日(日)

## ◎ 展示会

場所:レストハウス  
(ボード展示)

・緑化センターで見られる  
きのこ写真展

(ガラスケース展示)

・つづらふじ手作りカゴ作品展

～10月27日(日)

～10月25日(金)



「つづらふじ手作りカゴ作品展」より